

3-18. 南大東村（沖縄県南大東村）

(1) アドバイザー派遣申請の背景

●地域の概要

南大東村は、明治 33 年（西暦 1900 年）に、無人島であった島が、八丈島出身の方々によって開拓が始まり、開拓 114 年目を迎えた歴史の浅い島である。

島は、総面積が 30.57km² で、標準的珊瑚環礁が隆起し東西 5.78km、南北 6.54km の短楕円形で、海岸線から内側に環状に露出した岩石地帯であり、島全体を二重三重に防風林が設置され、耕作を囲んでいる。山は無く、島全体は平坦で、一番高い所でも標高 75.8m で、島の各所に鍾乳洞があり、中央部には 47ha もある大池を中心に多数の池沼が散在している。気候は、典型的な亜熱帯海洋性気候で、年間の平均気温 23.4 度と温暖で、年間 150mm 内外の降水量で、夏から秋にかけての台風シーズンには天気予報に一喜一憂している。

人口は、平成 26 年 1 月末現在で、1295 人、世帯数 650 戸、ここ数年は大きな変化はない。開拓以来、八丈島、沖縄各地から移住してきた人々が開拓精神を胸に、島の歴史を積み重ね、豊かな自然、人情ともに、高齢者、子供達、働き世代など、いつも心が触れ合い、どこでも手を結びあえる環境で、未来に向かって新しい島づくりに励んでいる。

有史以来、現在でもサトウキビが島の基幹産業であり、甘味資源の供給基地として栄えて今日に至っている。歴史、文化、自然は、沖縄県内でも特異的なもので、平成 12 年には天然記念物活用事業において、小さな島から大きな遺産、「島まるごとミュージアム構想」を立案し、島の自然保護と観光振興、特異性の強い自然、文化等を活かしたエコツアーの構築等、観光振興も新たに進めている。しかし、離島特有の、高齢化、人口減少、人材育成など、島が抱える様々な課題もある。



●アドバイザー派遣申請の背景・これまでの取り組み

南大東島は、「島まるごとミュージアム」をコンセプトに、エコツーリズムを推進して、島の基幹産業であるサトウキビ農業に加え、新たな産業構造構築のため、観光を推進し、24 年度には、村のホテル、農協、観光業者、商店などで構成する南大東村観光協会が設立された。さらに、昨年は新たな観光推進のため、3 年間かけて作成した、食のカレンダーが完成した。近年は、特異な自然、文化を求め、10 年程前から体験型の交流も行い、観光客も徐々にではあるが、増加傾向にはある。

しかし、これまでの南大東村の観光はマスの的な要素が高く、大手旅行社と提携して行うツアーが殆どで、最近

マンネリ化傾向にあり、今後観光が島の活性に繋がっていくか地元関係者も不安を抱えている。

また、南大東島に入るためには、生活路線として利用している、島の人が50%以上利用する1日2便(40人乗り)の飛行機と月4回で天候によっては欠航が多い船(所要時間13時間55名乗り)が運航しているが、島外からの来島は、他市町村に比べその数は限られ、今後、大幅に観光客が増加することは考えにくい。

そこで、南大東村では今後、エコツーリズムの基本である、地域が主体となった地域密着型観光が、大変重要になっていくものと考えている。今回は、「一人でも多くの南大東島のファンを確保するため」をテーマに、アドバイザー事業を活用させて頂き、これまで島で行ってきた様々な観光の取り組みを、改めて見直すとともに新たな島の産業となる観光を、どのような方法で今後行っていけばいいのかアドバイスをお願いしたい。

また、地域づくりとして、エコツーリズムを推進していくためには、今後の後継者である子供達を中心とした人材育成が、これからの大きな課題であり、徐々に高齢化や人口減少が進む南大東村の人たちにとっての「地域の宝」について、改めて認識を高めるためにも今回のアドバイザー事業を活用させて頂きたい。

(2) アドバイザー派遣実施の概要

日 時	平成26年2月28日(金)～平成26年3月2日(日)
場 所	シンポジウム及び講演：沖縄県南大東村離島振興総合センター 食のカレンダーを利用したツアーなどのワークショップ：南大東村文化センター シュガートレイン復活構想予定地、生活改善グループ拠点施設、南大東村役場(担当者説明等)
アドバイザー	京都嵯峨芸術大学 芸術学部 観光デザイン学科 教授 真板 昭夫 氏
参加者	<講演会・シンポジウム参加者> 南大東村役場8名、南大東村小中学校PTA13名、小中学校6名、南大東村役場8名、 地域参加者10名 計45名 <ワークショップ> 食のフェノロジーカレンダー関係(観光協会)5名、生活改善グループ(大東御膳作り)7名 計12名
スケジュール・方法	<p>【1日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウム・講演会 <p>「島の宝に目覚めた子供達」をテーマに、子供達や地域が宝さがしを行う事によって、生み出される地域づくりの考え方</p> <p>○日本エコツーリズム協会理事でもある、開 梨香氏と協力し、島の教育環境を含め、エコツーリズム(宝さがしから学ぶキャリア教育、地域の宝を活用し、地域づくりの原点)を見直すため、シンポジウムと講演を行った。</p> <p>【2日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勉強会 <p>「南大東島のファンを確保するため」をテーマに</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食のカレンダー」を活用した、ツアーのプログラム実施状況、成果、課題 ・宿泊関係者ヒアリング ・視察 <p>シュガートレイン復活事業の現場、ビニールハウス等見学</p> <p>【3日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視察 <p>「ダイトウオオコウモリの森」新たな島の宝となった、人工的に形成された森(真板先生が15年前にプロジェクト計画を行ったもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活改善グループ拠点視察 ・大東御膳についてのヒヤリング

(3) アドバイスの内容

●講演とシンポジウム「島の宝に目覚めた子供達」をテーマに

南大東島は、高齢化、人口減少など、離島特有の問題を抱えている。さらに地域活性化のため、エコツーリズムを推進し、宝探しなど、これまで行ってきたものを活用することはもちろん、これから継承し、発展させていくためには、人材育成も大変重要である。

そこで講演会では、エコツーリズムの基本となる「宝さがし」は人材育成を行う意味から大変有意義な活動となるとの考えから、次のご意見を伺うことが出来た。

- 観光というのは、地域の人達が誇るもの、自慢するものを、外から来る人に見せてですね、何と素晴らしい島なんだと、外から来る人と、地域の人達が交流することを観光という。
- 観光人口から交流人口という言い方をしています。
- 観光の光を、宝といい、その地域にしかない自然、文化、産業、などがかけがえのないもので、島の最大な価値であり、よそに負けないような自慢することを発見して、活かすということです。
- 子供達を巻き込んだ島の宝さがしは、島の誇り、島を担っていく子供たちを作っていく
- 宝さがしは、自信を持つ心（島のゆるぎない誇り）を育てることが出来る。
- 島を誇ることで、あらゆる可能性を見出すことができる子供達が育成される。
- 島を愛し、島を誇る子供達は、自分に自信を持った大人に育つ
- 自慢と誇りを持つ子供を育てることは、島の遺産を継承し、21世紀の郷土を開く、新たな人材となります。
- 誇りをもつための子供達のベースは、親が、住んでいるところ、関わる人、自分に対する誇りを子供達に自慢し、伝えること。

●ワークショップ・アドバイス

- ・観光協会が商工会のブランディング事業で、以前にアドバイス頂いた、食のカレンダーを参考に、ストーリー性を持った大東御膳 158名分を実施
- ・島内の飲食店、ホテルで、島に残る”銀のトレイ"を利用して実施した
- ・伊達巻寿司、大東オムレツ、スイーツ、和え物は生活改善グループが提供
- ・アンケートより、味、量、見た目など、大変満足、満足が多いが、器のプレートに関するコメントは辛口である。
- ・歴史的なものは満足だが、料理人にとってこの器（プレート）は困る
- ・料金も含め、今後、継続していくためにどうするかという問題。
- ・ツアーのメニューとして出していきたいので、今後の考え方、仕組み、ルール作りについてどうすればよいかアドバイスを頂きたい。

<アドバイス>

- なぜ、大東御前を作ったのか、大東御前とはどんなイメージなのかということを確認することが大切である。
- 大東御前のコンセプトが大事であり、新たな器を作って料理を出すことは何の問題もないと思います。
- コンセプトは3つあると思います。
 - 1 海洋島の特徴、南大東島の海の文化の象徴
 - 2 サトウキビ文化の象徴
 - 3 チャンプルー文化の象徴
- 以上の3点を、取り入れた御前を考えて、メニューを作っていくことが大切である。
- 生活改善グループが、新メニューづくりの情報提供を行っていくことはよいと思います。
- 観光客を迎える時に、料金のダンピングが心配である。
- 料理を作ることによって、お客さんに島の思いを伝えていくことが大切である。

○料理する人、それに関わる人たちが、島の料理を作る意味・コンセプトを明確にして、島の文化を認識してもらいたい。

○ケースバイケースで今後に対応していくことも大切だと思います。

●視察時

○島の食材を利用するために、とても充実したビニールハウスは素晴らしい。

○シュガートレインを復活させる時に、ハード面、管理の問題もそうだが、人を受け入れるソフト面を考えていく必要があると思います。

○ダイトウオコウモリの森は、造園学的にも貴重な場所として面白い場所です。



講演会の様子



ワークショップの様子



視察の様子



視察の様子





島の活動の様子（大東御膳づくり）

(4) アドバイザー派遣実施の効果

●参加者や関係者に与えた効果

- 「宝さがし」は観光や地域活性化だけでなく、人材育成として活用できることを学んだ。
- 地域の宝を一人でも多くの子供達が継承していくためには、地域全体で取り組んでいく必要性を改めて感じることができた。
- 食のモニターツアーによる大東御前の試みは間違っていないことが確認できた。
- アドバイスを頂いた、3つのコンセプトを大事にしながら、改めて自分たちの役割を見直して、これからの観光発展に活かしていくためのシステムを構築していきたい。
- 食のカレンダーを利用した、新たなツアーの構築の可能性も感じた。
- 食に関しては、地域全体で取り組む雰囲気づくりも大切である。
- 島に生まれた新たな宝、ダイトウオオコウモリの森を参考にしたプログラムツアーも考えられる。

●今後の期待される効果

エコツーリズムを推進する事は、現在島が抱えている、人口減少、高齢化など様々な問題を解決し、地域活性化を生み出す大きなカギになると思う。地域の宝を大切に、継承し、新たな宝を生み出し、それぞれをバランスよく大切に推進していくことで、地域が活性化し、島が抱える問題が解決していくかもしれない。

今回の事業をきっかけに、さらに南大東島のエコツーリズムの中核となる「宝さがし」の宝自慢をして、地域を誇れる人材を一人でも多く育ていく心が芽生えた。

また、エコツーリズムを推進して10年程度になり、多少マンネリ化が出てきたところだったため、これまでの時期を第1期の序章であり、エコツーリズムを生み出し、プログラム等を作っていく時期としてとらえ、これからはこれまで行ってきたことを継続的に実践し、応用していく期間として、新たな第2期として今後もエコツーリズムの推進を図って行きたい。

●今後の取り組み

- アドバイスを参考に「食のカレンダー」を活用した、お互いが連携して、飲食店、観光協会、農家、農協などが、南大東島の食材を利用して大東御前などの食事を外からの人に提供するのはもちろん、地元の人も気軽に食べられるようにシステムも構築する。

- 観光推進と地域活性化を図るため、「島の産業遺産」シュガートレインを復活させるための検討委員会を設置し、活動する。
- 島の人材育成のため、沖縄県の実施する体験交流学习の受け入れを、地域全体で受け入れる体制を作り、実施していく。
- 地域活性化のために、ホテル、観光業者、飲食店、行政、商工会が一体となって連携し、エコツーリズムの推進のために観光協会の充実、施設（ハード面）などのさらなる充実を図るよう、申し合わせを行う。

(5) アドバイザー派遣を実施して（地域からの声）

●参考となった事項

- フィジーを開拓し発展するのに 100 年かかっている。南大東島に似通った歴史の島があることを学んだ。貨幣の話は、面白かった（南大東島にある石と同じだった）。
- 京都で、和食が世界遺産になった時に、南大東島と同じ問題があった、日本食のイメージは芋の煮転がしから数万円する料理まで幅広い、その中で、京都にある地域では、京都料理を勉強した人の中で、後は自分で考えると、コースで有ることなどの大枠やテーマを持ち、料理を出している。
- 東京都の檜原村の例で、器の問題、料理人の問題、食材の問題等は大東島と同じようなもので参考になった。

●その他感想

本村は、高校が無く中学を卒業すると親元を離れた生活を余儀なくされる。その時に、自分の誇れるものを持ち、自信を持った子供達なら、どんな状況に置かれても自分を見失わず生活して、学校、仕事などに励むことが出来ると改めて感じた。

エコツーリズムは、ただ観光客を受け入れ、地域を活性化させるものではなく、人材育成としての大きな役割も担うものだと感じた。

これまで南大東島には団体客として訪れる人たちから、本当に島が好きの人達が、個人的に訪れることが、徐々に増えて来るのではないかと考えている。そのためには、やはりこれまで行ってきた体験ツアーを中心としたエコツーリズムの精神は、さらに重要度が増して行くものだと確信している。

また、食のカレンダーを活用したツアーや、島の食を大切にして、島の食材を利用した新メニュー作りなどは島の活性化だけでなく、島の誇れるものを改めて生み出すものであり、人が住んで 114 年の南大東島の、新たな歴史を作るために重要なアイテムになっていくものと思う。

(6) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

京都嵯峨芸術大学 芸術学部 観光デザイン学科 教授 真板 昭夫 氏

●地域におけるエコツーリズム推進の取組の現状と課題

エコツーリズムは、観光協会と商工会、生活改善グループ、行政では南大東村教育委員会、産業課等がそれぞれ観光やエコツーリズムの推進に関わっている。これらの元で、ツアープログラムの開発、島の食の開発、宝お興しによるブランド商品開発、新しいエコツーリズム客受け入れの宿泊施設の建設など実施されているが、まとまって実施されている訳ではない。

課題としては、今後島全体で観光を宝探しから宝お興しを考え指導して行く横断的な組織をどのように組み立てて行くのが最大の課題と言える。今後、外部との連携を強化してエコツーリズムを進めて行く若手人材の育成、などが重要な課題となって来ている。

●特に魅力を感じた地域の自然観光資源

南大東島での特に魅力を感じたエコツーリズム関連の資源は「サトウキビ開拓に関わる大和と沖縄本島のチャンプル文化と歴史資源」と「ふれあうことの出来る多様な海洋生物」「島が形成されて来た 4600 万年の歴史を示す鍾乳洞などの自然資源」「海洋島固有の生態系を構成する野生動植物」と言える。

●アドバイス（講義等）の概要

南大東島では、島の夫人の方々を対象に「宝探し」の意義と、その事が島の環境保全と同時に 15 歳で島を離れる子供達にいかに島の自然の素晴らしさに目覚めさせ、自信を持たせ、成長の糧となっているのかを事例をもとに講演した。またフェノロジーカレンダーをもとに開発した食「大東御膳」の活用方法について論議を行い、どのような基準で作って販売すべきかのアドバイスを行った。

●全体構想への取組状況・意向について

エコツーリズム推進のための全体構想を考えるまでには至っていない。それは、全体構想を策定して行く事が、保全の意義や子供達の生まれた島への自信を強くするという効果は理解できても、島の具体的なツアー実施と誘客効果とどのように結びつくのか、またそのあえて一緒に協会を作ってやるための活動費をどこから捻出するのが不明であるからである。費用が無いならば、今自分たちが所属している関係組織からの費用で夫々が夫々で実施して行けば良いのでは、という意識がある。

●地域に対する印象、今後地域に期待すること（メッセージ）

南大東村は徐々にではあるがエコツーリズムのツアーを実施し始めている。また観光客受け入れのための食の開発等に取り組みを始め徐々にではあるが、一般の観光から地域の資源を活用した独自のツアープログラムの開発にも着手しつつある。しかし島の中では様々な立場の人々があり、一つにまとまって進んでいないのが現状と言える。ただエコツーリズム開発における「宝探し」によって、15 歳になると島を出て行く子供達に自信を持たせ、ツアーの活性化が島の誇りを示す指標となるように取り組んでいる事は、立場の違う人々でも気持ちは同じと感じた。